

## 平成25年度 八洲学園高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

高等学校で過ごす「時」は、生徒さんの「人間力」を育み、将来豊かな人生を送るためにとても大切な時間です。  
八洲学園高等学校は、その「時」をより充実したものにするよう、学習面はもちろん、生徒さんの個性を大切にさまざまな場面でしっかりとサポートし導いていく学校として教育活動を実践していきます。

### 2 中期的目標

以下の項目において、当校の教育理念に沿った教育目標を達成するために、学校内外にある資源を組織として活用し、学習活動の成果を検証して、その強みと弱みを明らかにし、学校教育全体の底上げを図る。

#### 1 学校運営

- (1) 教育課程
- (2) 教職員連携
- (3) 財務関係
- (4) 情報公開
- (5) 危機管理

#### 2 教育内容

- (1) 面接指導・添削指導等
- (2) 情報教育
- (3) 人権教育
- (4) その他

以下の項目において、教員・教科間の連携状況、会議の有効性、学習指導及びカンセリング体制についての教職員による自己評価を、学力の向上と除籍防止への寄与の観点から分析を行い、学校の強みと弱みを明らかにして、改善の方策を検討・実施する。教職員の資質向上の観点から、学校運営、教職員の連携、校内外の研修等について自己評価を行い、日常的なOJT（On the Job Training）の活性化を図るとともに、研修体系、指導体制などの充実に努める。

#### 3 生徒指導・支援

- (1) 生徒指導
- (2) 進路指導
- (3) 生徒支援
- (4) 教職員研修
- (5) 管理

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成26年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○教職員 ・実施日 平成26年2月26日～平成26年3月7日</p> <p>・対象者 常勤教職員 32名</p> <p>・期日までに全常勤教職員より回答あり</p> <p>【分析】 すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。しかし、教育内容における部活動に関する取組や、教職員の資質向上の為の校外研修に関する取組などにおいては、今後一層の努力が必要であるとの教職員評価であった。</p>	<p>○学校評価委員会 ・実施日 平成26年4月19日</p> <p>・学校評価委員 校長、教頭、事務長、教務部長</p> <p>・学校評価委員により学校評価委員会を開催し、平成25年度学校評価結果について分析を行った。</p> <p>【意見】 平成25年度は、概ね教育目標を達成できているが、少ない教職員で膨大な業務を一時期に行っている状況が改善されておらず、各教職員の負担が多い状況に変化はない。 今後、より良い教育環境を築いていくためには、各教職員が教育活動により専念できる環境の整備が必要である。</p>

平成25年度重点テーマ		自己評価に基づく、自主的・自立的な学校運営改善	
目標(ねらい)	当校の教育理念に沿った教育目標を達成するために、学校内外にある資源を組織として活用し、学習活動の成果を検証して、その強みと弱みを明らかにし、学校教育全体の底上げを図る。		

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善策
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共通理解できている。	5	教育課程の編成・実施の考え方について、教職員間で共通理解ができている。しかし、教員個々での計画はあっても、各教科毎に年間を通じた指導計画を作成し、公開されるところまでは至っていない。今後の取組を期待しての評価となった。	教務部を中心に教科間の連携を増やし、先ずは、各教科内で研修や、各々の授業見学・授業評価をするなどし、積極的機会を設ける。
		教育目標・計画	生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取り組みを心がけている。また、生徒の学習について評価や評定の工夫が行われている。	5		
	教職員連携	組織運営	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制が整備されている。	5	校務分掌や主任制等が適切に機能し、学校の明確な運営・責任体制も整備されている。教員間教科間の相互理解は、勤務地(キャンパス)が離れていることもあり、難しい面もあるが、教職員間の相互理解・信頼関係に基づいて教育活動が行われている。職員会議をはじめ各部会議が有効かつ効率よく機能するよう努力する必要がある。	全体的な職員会議などを効率よく開催し、教職員間の連携の充実に努める。
		教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	5		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がとれている。	5		
		会議の有効性	職員会議をはじめ各部会が有効かつ効率的に機能している。	5		
	財務関係	財務に関する意識	学校の経営指標と財務状況について理解している。	4	学校・学園の経営指標と財務状況について理解している教職員は少ない。評議員会、理事会の役割や機能について理解を深める必要がある。	職員会議等での役員会報告と、学園HPの閲覧等により理解を深めるように努める。
		財務状況の把握	予算、決算の収支の状況について理解している。	4		
		評議員・理事会機能	評議員会、理事会の役割や機能について理解している。	4		
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページ等で可能な範囲の情報公開をしている。	5	八洲通信やホームページ等で可能な範囲の情報公開をしている。教員間での公開授業などの取組を始め、授業評価についても取り組みたい。	教務部や教科が主体となった研究授業を年度内に行う。
授業公開状況		保護者へスクーリングを公開したり、出席状況等を定期的に報告している。	5			
危機管理	役割分担	事故、事件、災害時に対処する役割を分担されている。	4	危機管理マニュアルの明文化と教職員の意識改革など喫緊に取り組む課題が山積している。警察、消防との連携、消防訓練など学校の安全対策は十分とは言えない。	生徒指導部が主体的にPTを形成し、校長のリーダーシップのもと、定期的に危機管理に取り組む。具体的には、避難場所や避難方法等について早急に確認が必要であり、防災用具・用品の確保確認を急ぐ。	
	安全管理	校内の安全点検活動を実施している。	4			
	危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策がとられている。	4			
教育内容	面接指導・添削指導等	学習指導	スクーリングでは各教員が工夫をし、体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味関心を生かし、自主的・自発的に学習を進めることができるよう工夫している。	5	スクーリング指導等について、年々精査され、よい指導計画が作成されている。また、生徒の実態に合わせて指導方法の改善を行っている。	教務部を中心に、学習指導内容のよりよいものとなるよう充実に図る。
			視聴覚教材などの教材・教具の活用をしている。	5		
	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	4	情報の教科を中心にモラル面の教育に取り組み、生徒の情報活用能力の育成を図っているがまだ不十分である。	管理部と情報科を中心に啓蒙の取り組みを始める。
		情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に取り組んでいる。	4		
	人権教育	研究体制	人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題や指導方法を教職員が研究している	4	特別活動を中心に、人権教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	教職員が年間指導計画に沿って目標を達成できるよう研修の機会を設ける。
		教育体制	社会の一員としての意識(公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)について、指導している。 命の大切さや環境の保全などについて指導し、人権尊重やいじめ防止の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	4		
	その他	学校行事	遠足・実習などの学校行事を充実させている。	5	部活動は活発で、球技大会、宿泊実習などの学校行事を行い、芸術文化活動にも教育活動に取り入れている。また、他国の文化に興味を持つ事が出来るように配慮している。	特別活動の充実により、当校の特色を出すことができるよう努める。
		部活動	部活動で、教育課程外の活動の管理・実施体制は整っている。	3		
		特別活動	計画的に教育活動に取り入れている。	5		
		国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	3		

平成25年度重点テーマ		自己評価に基づく、自主的・自立的な学校運営改善	
目標(ねらい)	教員・教科間の連携状況、会議の有効性、学習指導及びカウンセリング体制についての教職員による自己評価を、学力の向上と除籍防止への寄与の観点から分析を行い、学校の強みと弱みを明らかにして、改善の方策を検討・実施する。教職員の資質向上の観点から、学校運営、教職員の連携、校内外の研修等について自己評価を行い、日常的なOJT(On the Job Training)の活性化を図るとともに、研修体系、指導体制などの充実を努める。		

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価	評価の観点と理由	改善方策		
生徒指導・進路指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	生徒指導は学校の方針に従い、除籍率の減、単位修得率の増を心掛けている。	5	生徒の生活指導に、教職員全体として組織的に対応する体制がある。生徒を対象とする保健(薬物乱用防止、心のケア等)に関する体制整備や指導・相談できる体制が十分に整っていないことを再認識し、生徒指導部中心に研修を重ねている。それぞれの立場で日々努力を怠らなかつたが、日々の生徒対応等の業務に振り回され、結果的に全体として後手後手の対応となってしまうところがある。次年度への大きな課題である。	生徒・保護者との連絡・連携がスムーズに行えるよう、ハード面・ソフト面での体制の整備を行い、研修の充実を図る。また、外部講師の協力を得て、改善を図る。		
		生活指導について	生徒の生活指導に、教職員全体として組織的に対応する体制がある。喫煙者・遅刻者への対応にも重点を置いている。	5				
		家庭との連携状況	保護者と連携計画して情報交換を行い、基本的な生活習慣を身に付けさせる為の工夫ができています。また、保護者会や保護者面談を行い、保護者との連携を充実させている。	4				
		保健管理	生徒を対象とする保健(薬物乱用防止、心のケア等)に関する体制整備や指導・相談ができる体制がある。	4				
	進路指導	キャリア教育について	教職員全体として組織的にキャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備されている。また、生徒の適切な勤労観・職業観の形成や、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度の育成のための体系的・系統的な指導ができるよう工夫している。	4			学習指導(S・R)において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っているが、教科間での連携や、教科としての取組は薄く、カウンセリングマインドで対応できる教員はいるが、学校全体の支援体制が十分であるとは言えない。生徒一人ひとりの興味・関心・適性を発見できるような工夫をし、それに応じた進路選択ができるような支援体制はあるが、進学中心で、就職支援までは対応できていない。不登校等に関するさまざまな問題の支援と情報提供を行っている。	教員研修を活発に行う体制の整備と、生徒保護者相談窓口開設に向け、研究調査を行う。
	生徒支援	カウンセリング体制	スクールカウンセリングなど、カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。また、中途退学者の生徒を一人でも少なくすることに誠意努力している。	5				
	情報発信	定期的な学校説明会や保護者会を開き、不登校等に関するさまざまな問題の支援と情報提供を行っている。	3					
	教職員研修	資質向上	教員間で校務内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	4				
教職員研修など	教職員研修	校外研修	教職員が計画的に校外研修を受けることが出来る体制がある。	3	教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会は少ないが、研修については概ね計画通り実施した。研修成果の普及にはまだ課題が残る。	研修をスムーズに行えるよう勤務調整に努力し、外部団体や教育機関での研修に参加できる体制づくりを行う。		
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	4				
		他校種・関係機関等との連携	全国高等学校通信制教育研究会・私立中学校高等学校連合会等の団体に加盟し、多様化した生徒に応じた通信制教育の改善と充実を図っている。	5				
		管理	光熱水費	学校において環境問題に対応するため、使用する光熱水費や用紙量等の削減について取り組みをしている。			5	
	文書管理	学校において備えつけなければならない表簿は適切に管理されている。また、諸事務等の情報化が進められている。	5					